

事業の背景・目的

特別名勝松島の一角を占める宮戸島は、丘陵を覆うマツ林が特徴的な島で900種以上の植物種が検出されている。絶滅危惧種や分布限界種、原産種など貴重な植物も確認されているが、震災による被害と復興事業によって、島の道沿いや被災した農地、山の斜面の木々に外来植物の繁茂が認められるようになってきた。島の豊かな植物相を保全するため、特定外来植物の分布状況を確認し駆除を行うとともに、外来種に対する関心を高め、地域住民等への普及啓発を行い、奥松島地域の生物多様性の保全を推進する。

事業の内容

平成30年度

事業① 特定外来植物調査事業

・宮戸大浜湿地整備計画地周辺における特定外来植物等の分布状況調査を実施した。

事業② 特定外来植物防除事業

・調査結果を踏まえて、湿地整備計画地及び散策路周辺の特特定外来植物等の駆除を行った。

事業③ 普及啓発事業

・ボランティアイベントの開催により、地域内外に生物多様性の保全の重要性の意識付けを行った。
・特定外来植物等の分布調査報告パンフレットの作成や地域コミュニティとの連携及びマスコミを利用した啓発を行った。

平成31年度

事業① 特定外来植物調査事業

・大浜湿地周辺のモニタリング調査
・野蒜海岸周辺の分布状況調査

事業② 特定外来植物防除事業

・宮戸島及び野蒜海岸周辺の特特定外来植物等の駆除

事業③ 普及啓発事業

・ボランティアイベントの開催
・周知パンフレット等の作成配布

得られた成果

宮戸島の大浜湿地環境復元計画地周辺における特特定外来植物等の詳細な分布調査を帰化植物の詳細な分布状況を実施した結果、予想以上に特特定外来植物等の帰化植物が繁茂していることが確認され、当初の想定以上の規模で防除が必要であることが明らかになった。その上で、防除の方針を定め、現状を踏まえた効果的な防除の方法を探るため、大浜湿地計画地周辺を中心に面的な駆除を行い、来年度以降、開花前に抜き取りと最低限刈り取りを徹底し、まずは開花結実個体を減らすことを目指すこととした。今後は大浜湿地周辺を外来植物防除のモデル地区として、駆除とモニタリングを継続しながら、本地域における効果的な維持管理と保全の在り方を探るための取り組みを行うこととする。地域が一体となって外来植物防除の意識と奥松島の生物多様性の保全することの重要性を理解し、保全推進に取り組む機運を高め、地域が主体となって取り組む様々な保全活動に繋げていく活動を展開していく。